

特集

工学科の挑戦

○ものづくりコンテストへの挑戦

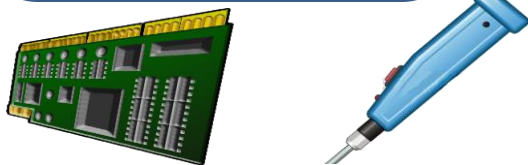
ものづくりコンテストとは各工業系高校で取り組んでいるものづくりの技術・技能を競い合う大会。鹿児島県大会は6月13日に開催され、本校からは、「測量競技」「電子回路組立」の2部門に出場しました。ここで、生徒たちの取り組みの様子を紹介します。

電子回路組立部門

2時間30分の制限時間内に、電子回路の設計と制御プログラムを作成し、目的の動作をするシステムを完成させる。ハンダ付けの技術とプログラミング力が問われる。

3年H君

僕はものづくりコンテストに初めて出場しました。ハンダをつける位置やハンダの量の調節が難しく、気を配りながら頑張りました。



測量競技部門

3人1組で、グラウンドに設置してある5角形(総路線長約150m)の角度と距離を測定し、その正確性と測量・計算の速さで勝敗を決める。



3年U君

測量では、複雑な計算もあり、個人の技能だけでなく、チームの協力が不可欠です。効率よくできる方法を模索して練習に取り組みました。



○危険物資格取得への挑戦

一定数以上の危険物の貯蔵・取扱いを行う施設では、危険物資格の有資格者を置かなければいけません。資格試験の種類は危険物別に甲種、乙種(1~6類)、丙種と分かれています。工業系の高校生に人気のある資格で、企業によっては就職採用の条件になる場合もあります。

2年I君

昨年度、危険物乙種4類を取ることができました。今年度は第3類と第5類を受けます。目標は乙種全取得です。



plus¹

工学科の取り組み

工学科では毎朝、オアシス運動を行っています。

オアシスとは、「おはようございます」「ありがとうございます」「しつれいします」「すみません」の頭文字をとったもの。これを毎朝唱和し、社会人らしい挨拶や人前に立っても大きな声が出せる力を身につけています。

2年Iくん

オアシス運動を始めてから、今までよりも大きな声が出るようになりました。挨拶がはきはきしていると相手の印象も違うと思います。



T O P I C S

《確かな英会話力を目指して~その2》

文理科1年生と普通科2年A組の生徒たちを対象に、シンガポール出身のケナード氏を講師として講演会を行いました。自国にいたときから日本語を学び、日本での留学経験もあるケナードさんは、「カルチャーショック体験を経て、初めて自分らしい生き方ができるようになってきたと思う」と語り、小さな自分の世界に留まるだけではなく、飛び出していくことで多くの事を学べると生徒に伝えました。

今年度、キャリアアップコース2年生はシンガポールでの海外研修を予定しています。普段出会うことのない外国の方から、直接話を聞くことは、大きな刺激になったのではないのでしょうか。



れいめいの顔

れいめいの生徒・職員の中から“イマ”輝いている人を紹介!

今回、紹介するのは生徒会長 野間力也君!!

今年度、生徒会長になった彼は「この役についたことで、自覚が出てきて成長を実感しています」と語る。

周囲からは雰囲気や和ませてくれる、責任感の強い人物と評判が高い。

「大好きなサッカーではチームの皆と選手権で優勝できるように頑張っています。生徒会長として、部活も学校の仕事も全力でやり切りたい。生徒全員が『学校って楽しい!』と思えるような環境をめざします。」と、はにかみながら述べた。



The next issue

NO.4 1学期の歩み